

●1年生の皆さんは、高校生活最初の定期試験が終わり、ひとまずは「ほっ」としたところではないでしょうか。感染症の拡大の心配から思うように出来なかった部活動も、徐々に再開され、充実感を覚えている人もいるでしょう。もう少しで夏休み…。臨時休校もありましたが、どんな1学期だったでしょうか。6月23日(火)6限、各教室にておこなわれた「人権・同和教育に関するホームルーム活動」について、振り返りをしてみましょう。

『形があったよ』～コミュニケーションの必要性を考える～

●前半は、「**価値観の多様性を感じよう**」。

先生からの質問に対して、自分なりの回答(「正しい」・「たぶん正しい」・「たぶん間違っている」・「間違っている」)をもち、その回答のカードが貼られたコーナーに移動する、という活動でした。

例えば、「最も美しい花は、桜だ」。クラスによっては、「担任の先生は優しい」、「戦争は悪だ」といった難しい(?)問いも出されました。それぞれについて、正しいと思うか間違っていると思うかは個人の自由です。仲



の良い友人やクラスメイトであっても感じ方や考え方は異なっている、ということに気づくことができたのではないのでしょうか。人との出会いを通して、多様な価値観に出会い、そのなかで大切なことは何かを考えていくことが、人権についての学習の第一歩になります。

●後半には、「**形があったよ**」のグループ活動をおこないました。

課題は、「3枚のカードを組み合わせて正方形を作る」という、一見簡単そうなものでしたが、他のメンバーと会話も、身振り手振りなどのやりとりもすることができない状況のなかで、全員が正方形を完成させることができなかったというグループも多かったようです。

「どのようにすれば、よりスムーズに正方形を作ることができたと思うか」という問いに対し、

- 🗉 会話をする / 声をかけあう / コミュニケーションをとる
- 皆で話し合う / 話しながら、いい形があったら教え合う / みんなで協力

…と、多くの方がコミュニケーションの必要性に気付くことができていました。また、声を出して話をする以外にも、次のような工夫を考えた人もありました。

- 🗉 他の人の様子を見る / 想像力を働かせる / 助けを求める

(→裏面へつづく)

(→表面より)

この活動を日常生活や学校生活に置きかえて、皆さんに気づき考えてほしかったことは、次のようなことです。

- ① 目の前の課題を知ること。何が問題なのか、解決すべきことは何か、を正しく理解すること。
- ② 個人では解決が難しい課題に向かうために、他者との協働が必要であること。
- ③ 協働するためには、相手と話すなど、コミュニケーションをとることが必要であること。黙っていても、何を考えているのか理解してはもらえないこと。
- ④ よりよい方法を考え、それを仲間で共有することができれば、スムーズに課題解決できること。

生徒の皆さんの中にも、同じような気づきをもって感想を書いてくれた人がいたので、紹介します。

📎 静かにしゃべらずに活動をすることで、みんなで話しあって協力することがどれだけ大切で、スムーズに活動ができるかがわかりました。

📎 コミュニケーションの大切さが改めてわかった。自分の考えを相手に伝えることができる能力を、さらに身につけようと思えるよいきっかけになった。

📎 人とコミュニケーションをとることで、解決できない問題を解決することができることがわかった。人はそれぞれ、違う意見や考えを持っているからこそ、色々なことが解決できるのだと思った。



また、前半の活動も踏まえて、次のような感想もありました。

📎 **みんな違った意見があっても良いと思いましたが、その意見の違いがイジメや喧嘩、戦争を生み出すと思うと悲しいです。**

これを読んで皆さんはどのように感じますか。いじめや喧嘩、戦争を生まないために、何ができるでしょうか。社会は、異なる意見をもつ人たちが集まって、つくられています。よりよい生活を実現するためには、異なる意見を否定するのではなく、互いに理解し歩み寄ろうとする努力が必要なの

ではないでしょうか。また、「意見を主張すること」と「相手を攻撃すること」とをはき違えている人はいないでしょうか…。

「よりよい」コミュニケーションとは何なのか、2学期の人権・同和教育に関するホームルームの時間を使って、皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。

(人権・同和教育推進スタッフ 森脇)

*この便りは持ち帰り、保護者のかたと人権について話しあうきっかけにしてください。

